

## <白金標準、買われ過ぎの反動で下値模索の展開・・・>



(出所：オアシス)

米国財務省は債務残高の膨張と市場金利の上昇で支払い費用の負担増を理由に国債の増発を発表、また大手格付け会社フィッチが米国債の格付けを最上級「AAA」から「AA+」へ引き下げを発表するなど、今週は金利の上昇に伴うドル高や株価の下落に伴った円高に押されて、4348円まで戻りを見せた高値から週末には一時7月28日に付けた安値4165円を下回る4163円まで下値を模索している。ただ週末に発表された雇用統計では、非農業部門就業者数が18.7万人、失業率は3.5%と低下し、平均時給は前年比で4.4%と上昇している。そのため強弱入り乱れた数値に9月以降のFOMCにおける利上げ打ち止め感を肯定するまでは至っていない。ただ金利低下に伴いドル建て価格の上昇で一時4208円まで戻りを見せている。特に今週は8日3年債、9日には10年債、10日は30年債の国債入札を控えており、好調な入札で終わる様であれば、金利低下から4348円から下落した巻き戻しが起こってもおかしくないと思われる。ただ白金標準先物の建玉内容で、個人計の買い越しが28日には16428枚と増加しており、その振るい落としの値動きが起こる可能性も否定できないことから、再度4163円を試す値動きには注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDとシグナルが下げており、RCIでは短期が反転したが、長期は下げて来ている。ただ日足が10日移動平均線と40日移動平均線から乖離しており、目先は4300円への自律反発には注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,235,000 円(2023 年 8 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 8 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>